

シンポジウム

2026年 3月 22日 (日)

13時～ (17時半終了予定)

@東京藝術大学音楽学部校舎
5-109教室



ゲスト講演

片山 杜秀

(慶應義塾大学
法学部教授)

研究発表・実演

千葉 豊 (東京藝術大学/ボン大学)

東舘 祐真 (東京藝術大学)

トーマス・ハーヴィー (東京藝術大学)

《野菊》や《たなばたさま》の作曲家・下總皖一(1898～1962)。しかしそれは、下總という音楽家の一側面に過ぎない。東京音楽学校で学び、ベルリン高等音楽院でパウル・ヒンデミットに師事した彼は、モダニズム音楽の理論と実践を伝える作曲家/音楽理論家/教育者として、一体何を果たしたのだろうか。

本シンポジウムは、研究発表と下總歌曲の実演を通じて、近代日本音楽史上の下總の足跡と、そこに見出される「もう一つのモダニティ」、すなわち、日本発の音楽的近代の一端を探る。

主催：下總皖一プロジェクト実行委員会
助成：東京藝術大学未来創造継承センター
「令和7年度芸術資源活用プロジェクト」



問い合わせ先：shimohsa.project2026@gmail.com

後援：下總音楽事務所

Shimohsa
Music office
下總音楽事務所



下總皖一と「もう一つのモダニティ」

ベルリンから東京へ ヒンデミットの伝承者が紡いだ近代日本音楽史の一断片

参加無料

(事前登録不要)